

定期作況報告

(第3号 平成20年7月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年より 3.3 低かった。降水量は平年より 20.3mm 少なく、平年対比 20%であった。降水日数は平年より 2 日少なかった。日照時間は平年より 30.1 時間多く、平年対比 157 %であった。夏日(最高気温 25 以上)は 5 日間、真夏日(最高気温 30 以上)はなかった。

7月上旬：最高気温は平年より 4.2 高く、最低気温も平年より 3.2 高かった。降水量は平年より 29.0mm 少なく、平年対比 19%であった。降水日数は平年より 1 日少なかった。日照時間は平年より 0.7 時間多く、平年対比 102 %であった。夏日は 8 日間、真夏日は 2 日間であった。

7月中旬：最高気温は平年より 1.7 低く、最低気温は平年より 0.4 高かった。降水量は平年より 18.6mm 多く、平年対比 135%であった。降水日数は平年より 2 日少なかった。日照時間は平年より 16.6 時間少なく、平年対比 62 %であった。夏日は 4 日間、真夏日はなかった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.0	24.0	0.0	28.5	24.3	4.2	23.9	25.6	1.7	25.5	24.6	0.9
最低気温()	9.8	13.1	3.3	17.2	14.0	3.2	16.0	15.6	0.4	14.3	14.2	0.1
平均気温()	16.2	18.3	2.1	22.4	18.8	3.6	19.3	20.1	0.8	19.3	19.1	0.2
降水量(mm)	5.0	25.3	20.3	7.0	36.0	29.0	71.5	52.9	18.6	83.5	114.2	30.7
降水日数(日)	1	3	2	2	3	1	3	5	2	6	11	5
日照時間(hr)	83.0	52.9	30.1	44.1	43.4	0.7	27.4	44.0	16.6	154.5	140.3	14.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：幼穂形成期は平年に比べ3～4日遅く、生育の遅れを取り戻せなかった。その後、7月上旬は高温に推移したものの生育進度は回復せず、止葉期も平年より3～4日遅いままであった。

7月20日現在の主稈葉数はほぼ平年並であった。m²当たり茎数は中苗が平年並に回復し、成苗は平年並を維持した。草丈は中苗が平年並に回復し、成苗は平年より4～7cm低かった。

以上、生育進度がやや遅れ気味で、成苗の草丈が平年値に達していない。しかしながら、主稈葉数およびm²当たり茎数は平年並を確保しており、現時点において生育の遅れによる影響は少ないと考えられる。よって目下の作況は「平年並」である。

表2 水稻の生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.4	6.30	4	7.20	7.17	3
ほしのゆめ 成苗	6.28	6.24	4	7.15	7.11	4
きらら397 成苗	6.30	6.26	4	7.16	7.13	3
ななつぼし 成苗	6.27	6.24	3	7.15	7.11	4

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「遅」を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm

4) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日

表3 7月20日の水稻の生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/m ²)				草 丈(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.2	11.1	0.1	887	868	19	102	67.4	66.2	1.2
ほしのゆめ 成苗	10.3	10.2	0.1	868	814	54	107	71.6	75.6	4.0
きらら397 成苗	11.2	11.2	0.0	820	821	1	100	65.2	70.9	5.7
ななつぼし 成苗	10.9	10.5	0.4	761	758	3	100	72.9	80.1	7.2

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦 : やや良

事由：出穂期は平年より7日早かった。6月は登熟がやや緩慢であったが、7月上旬が高温で降水量が少なかったために登熟は進み、成熟期は平年より4日早かった。稈長は平年よりやや長く、穂数は平年より多い。

したがって、目下の作況はやや良である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	6.3	6.10	7	7.14	7.18	4

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	89	83	6	8.3	8.6	0.3	756	651	105

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

3)大豆 : 平年並

事由： 7月上旬は気温が平年より高く経過したため、生育は回復傾向にあったが、開花期は平年よりやや遅れた。7月中旬は降水量が多く日照時間も平年より少なかったことから、徒長気味の生育となり、主茎長は平年より長い。主茎節数は平年よりやや少なく、分枝数は平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.14	7.11	3
トヨコマチ	7.11	7.9	2
ユキホマレ	7.12	7.10	2

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	57.0	54.2	2.8	9.0	9.6	0.6	7.0	7.0	0
トヨコマチ	68.3	59.1	9.2	10.3	10.7	0.4	7.4	6.8	0.6
ユキホマレ	64.9	59.6	5.3	9.6	10.6	1.0	5.6	6.2	0.6

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : やや不良

事由：平均気温は、6月下旬は平年より低かったが、7月上中旬は平年並～高く推移したため、生育はやや回復傾向にある。しかし、依然として、主茎長は平年より短く、分枝数も平年より少ない。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	20.8	25.5	4.7	8.0	8.2	0.2	2.8	4.7	1.9
しゅまり	23.4	25.9	2.5	8.1	7.9	0.2	3.3	4.8	1.5

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : やや良

事由：開花始は平年並であった。7月に入り気温が平年並か高く経過したため、生育は順調であり、茎長は平年並であるが、上いも数は平年より多く、上いも収量は平年を上回っている。でん粉価は平年よりやや低い。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品種名	開花始(月日)			茎長(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.23	6.23	0	47.4	45.6	1.8

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	11.2	9.3	1.9	69	72	3	3413	2956	457

品種名	でんぷん価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	12.9	13.3	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、19年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。